

(32. 肘折)

32. 肘折 ひじおり Hijiori

北緯 38° 35′ 57″ 東経 140° 09′ 42″ 標高 552m (三角山)
(標高点・独自に計測)



肘折全景 東側上空より 八木浩司撮影

概要

肘折(銅山川軽石流)(杉村, 1953)は、山形県最上郡大蔵村、山形県尾花沢市の西約 20km、月山の北東約 15km、鳴子の西南西約 50km に位置する。肘折を構成する地形は、内径約 2km 外径約 3km 比高マイナス約 0.2km のカルデラであり、火砕流台地がその南方数 km と北方約 8km にかけて分布している。宇井・他(1973)、Miyagi(2004)による肘折の活動年代分析値から、おおよそ 1 万年程度前に活動があったと考えられる。現在、噴気活動はないが、地熱活動が継続している。カルデラの東端と中央部に温泉があり、中央部の湖成層が著しい温泉変質を受けている。構成岩石の SiO_2 量は 63.9~68.7 wt.% である。

地形図

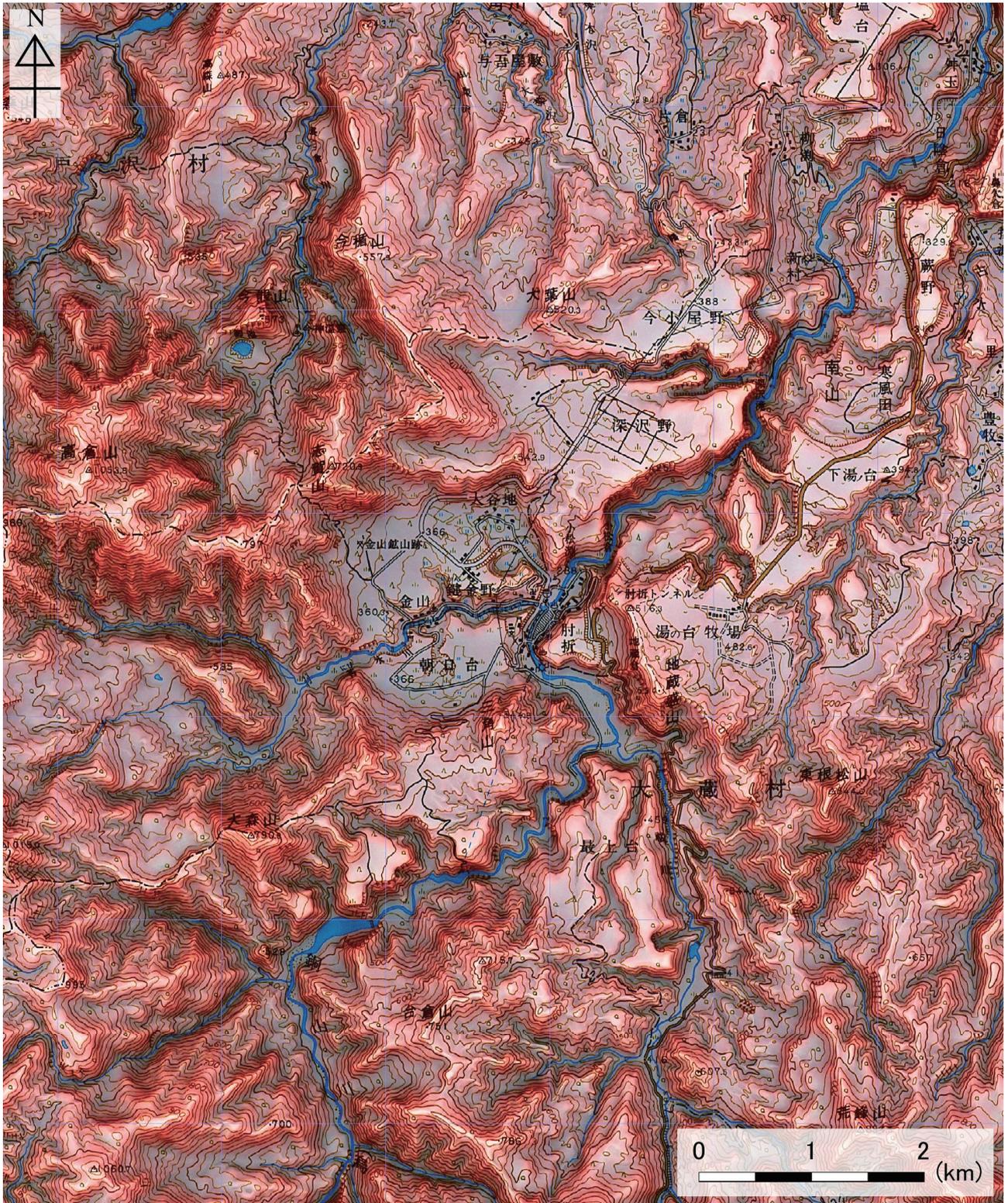


図 32-1 肘折の地形図.

国土地理院発行の5万分の1地形図(月山)及び数値地図50mメッシュ(標高)

噴火活動史

・ 過去 1 万年間の噴火活動

肘折カルデラの形成は約 1 万年前であり、それ以降の噴出物を残す火山活動は確認されていない(Miyagi, 2004)。

肘折の噴火活動は約 12000 年前に始まり、比較的短期間に一連の活動を終息したと考えられている(Miyagi, 2004; 宮城, 2007)が、最新の噴火活動の年代は不明である。なお、村上・川口(1994)、川口・村上(1994)は肘折カルデラ内の湖成層を覆う「鍵金野降下火砕物」を記載し、これをカルデラ形成後の最新噴火活動による産物だと考えたが、宮城(2007)はこの堆積物を発見できなかつたと報告している。

近年の火山活動

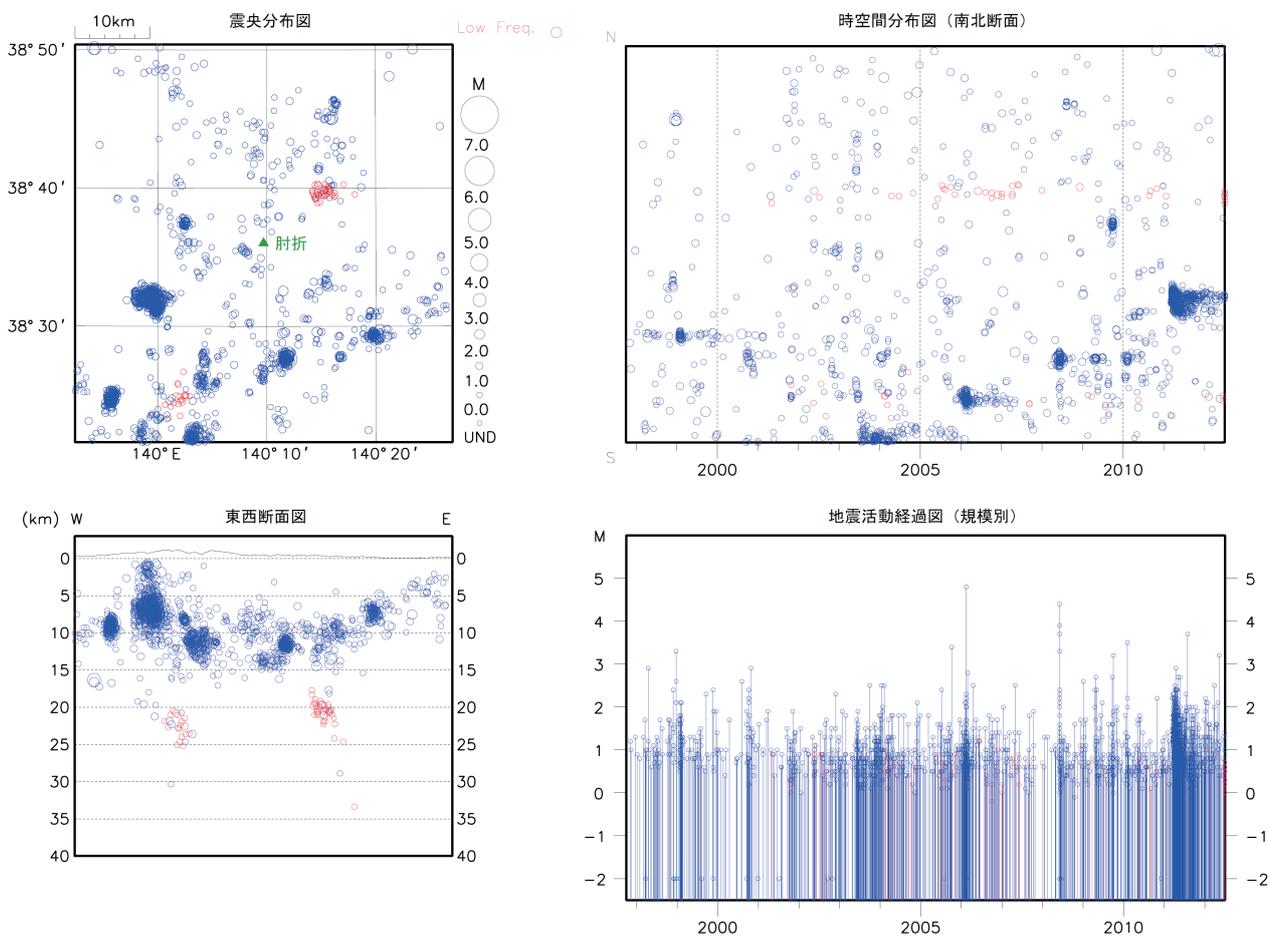


図 32-2 広域地震観測網による浅部の地震活動(青)及び深部低周波地震活動(赤)
(1997年10月～2012年6月30日)。

防災に関する情報

①火山防災協議会

なし

②避難実績及び入山規制等の実績

いずれもなし

社会条件等

①人口

- ・山形県大蔵村：3,725人（平成23年4月1日現在）
（山形県の人口と世帯数（推移）（月報）による）

②国立・国定公園・登山者数等

国立・国定公園指定無し

③付近の公共機関

機関・部署名	所在地	電話番号
大蔵村役場	山形県最上郡大蔵村清水 2528	0233-75-2111

④主要交通網

- ・国道458号線

⑤関連施設

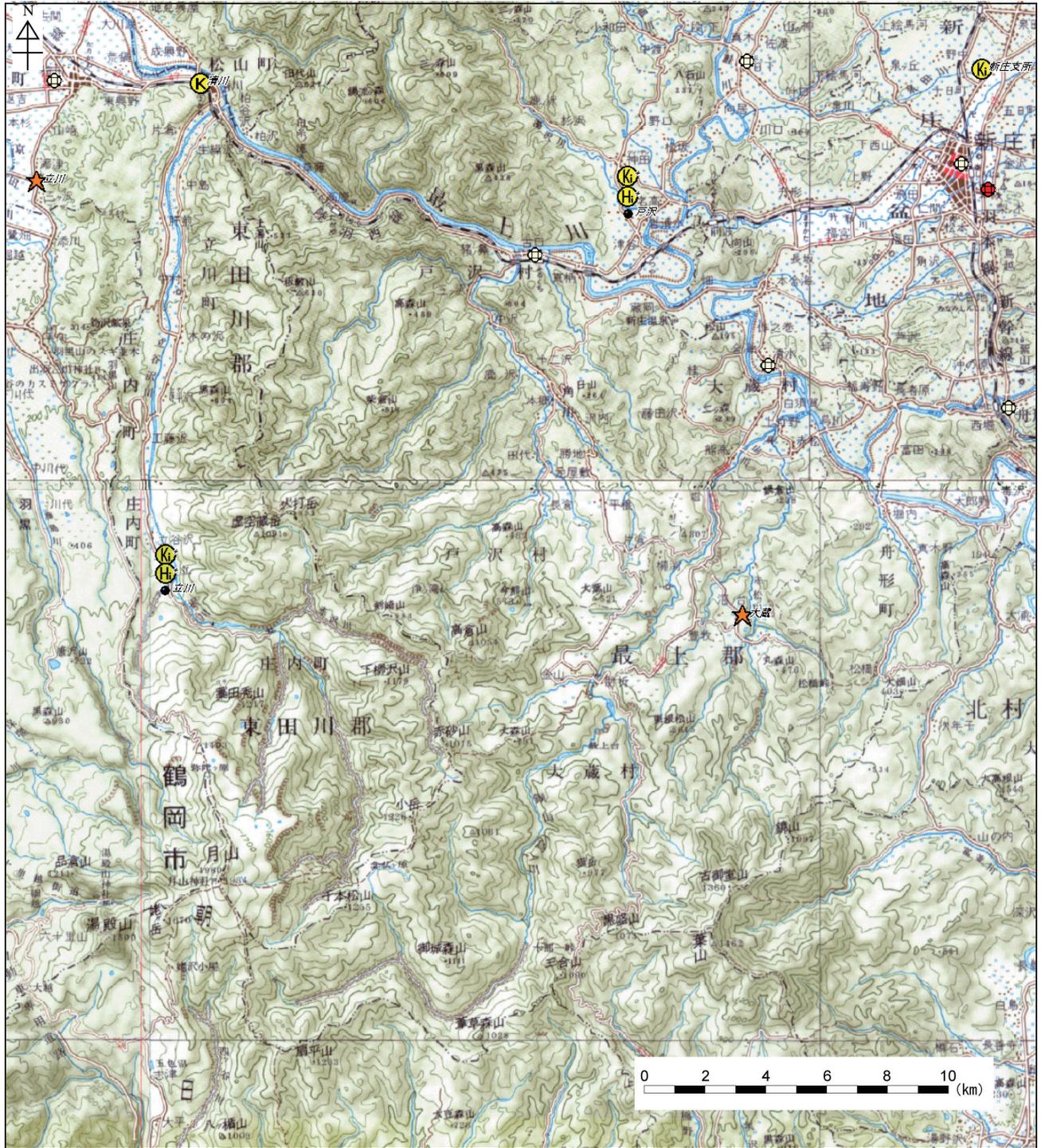
なし

関係する主な気象官署

機関・部署名	所在地	電話番号
仙台火山監視・情報センター	（仙台管区気象台）宮城県仙台市宮城野区五輪 1-3-15 仙台第3合同庁舎	022-297-8100
山形地方気象台	山形県山形市緑町 1-5-77	023-624-1946

気象庁および大学等関係機関の観測網

広域 ※ 同一地点に複数の計器を設置している場合には、観測点の位置を●で示し、その周囲に設置している観測点の種類を示している。



国土地理院発行の20万分の1地勢図(酒田, 村上, 新庄, 仙台)

凡 例		
(気象庁)	(国土地理院)	(防災科学技術研究所) (自治体)
● 震度計	★ GPS	⊕ Hi-net
		⊕ K-NET
		⊕ KiK-net

図 32-3 観測点位置図 (広域).

引用文献

- Miyagi, I. (2004) On the eruption age of the Hijiori Caldera, based on more accurate and reliable radiocarbon data. *Bull. Volcanol. Soc. Japan*, **49**, 201-205.
- 宮城磯治 (2007) 肘折火山: 噴出物の層序と火山活動の推移. *火山*, **52**, 311-333.
- 村上英樹・川口泰広 (1994) 山形県肘折カルデラ産ホルンブレンドの組成変化と火山活動. *秋田大学鉱山学部資源地学研究施設報告*, **59**, 1-23.
- 杉村 新 (1953) 月山東北方の軽石流台地. *地質雑*, **59**, 89-91.
- 宇井忠英・他 (1973) 肘折火砕流堆積物の ^{14}C 年代. *火山*, **18**, 171-172.